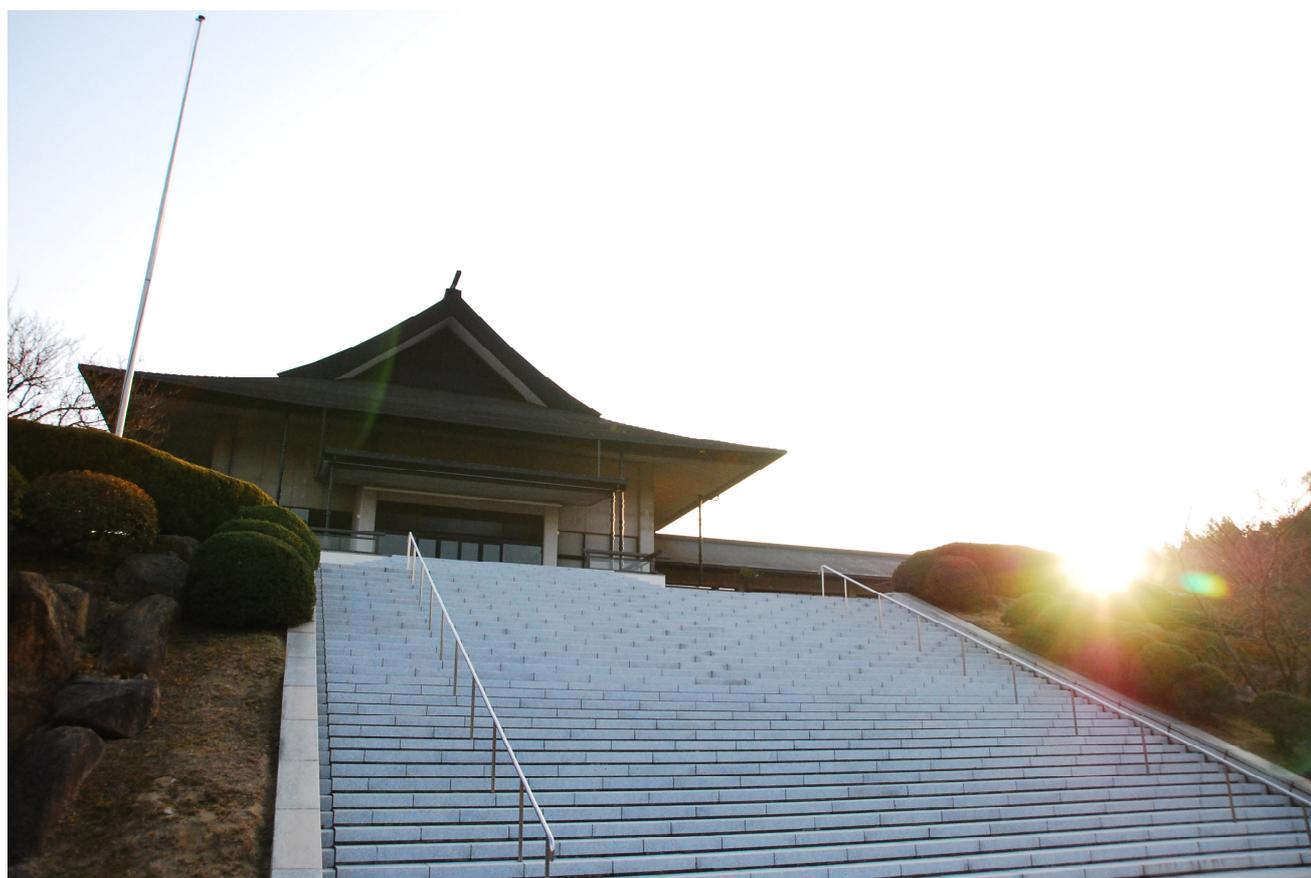


かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



新春の太陽を浴びる大教会神殿

立教175年
1月号

立教百七十五年

明けましておめでとうございませす



昨年は誠にありがとうございます。中でも3月に発生した東日本大震災に対して、義援金や救援物資、又災害隊派遣に真実の心をお寄せ下さいました。もちろんその中、十一月三十日の大教会創立百二十周年記念祭に於いては、連日準備ひのきしんに、又当日のひのきしんと大勢の方に真実の心寄せを賜り、お陰で二千三百余人の方々の参拝を頂き、誠に盛大に賑やかに記念祭を勤めることが出来ました。加えて真柱様・奥様にも前日・当日共に常にこやかにお過ごし頂き、随行先生や来賓の方々にも「本当に素晴らしいおつとめ・記念祭ですね」とお喜び頂きました事は、誠に嬉しい限りであ

ります。

さて記念祭で申し上げましたように、いよいよ教祖百三十年祭に向け本格的に「おつとめ奉仕人増員」を目指しての歩みが始まりました。本年はその歩み出しの年であります。只増員と唱えるだけではご守護はありません。行動が大事である事は皆さんも知るところであります。ではどう行動するかは、皆さん一人ひとりが考え自分が出来るところからさせて頂いたらどうでしょうか。けれども勝手気ままにしたら良いというのではなく、神殿に額ずき親神様・教祖にご相談申し上げるか、会長さんに相談する等して実際に掛かせて頂くと良いと思えます。そうすれば心通りのご守護を頂けるはずでです。どうぞ記念祭で培った「一手一つ」の心で、今年一年精一杯御恩報じにつとめさせて頂きましょう。

笠岡大教会長

上原理一

温故知新

いきいきエピソード 11

明男先生の真実

病室の入口には面会謝絶の貼紙がしてある。

入口近くには急を知った親戚やら隣家の代表達が見舞いに先着して居られる中、主人同道だから病室へ入らせて貰った。病人は意識不明になっている。Aさんも急変に驚いて声をかけるが全く返事がない。この状態に私も困ってしまった。これでは病人を連れ出す事もできない。途方に暮れて一旦病室を出た。見舞いに来た人達の処にも居れず、庭に降りて考え込んでしまった。フト出発の時、教祖殿へ参拝して教祖のお供をした事を想い出し、何という馬鹿だ、教祖の姿が見えず、病人の姿を見て途方に暮れるなんて。教祖申し訳ありません。笠岡の方へ向かってお詫びし、病室へ引き返し、教祖、お連れ帰り下さるのでしたら、病人の口を通じてお知らせ下さいませ・・・と時間を切っておさづけを取り次がせて貰った。その御願いの時間が迫ると同時に病人が「笠岡へ」と口走った。意識なかった病人の口から出た言葉に一同驚いた。と共に意識も戻り、私にも会釈した。奥さ

ん、これから笠岡へ帰るのだから元気を出せよと言うと、病人がこの身体では無理だとかぶりを振る。それで教祖が連れて帰って下さるのだと納得のいくようお話させて貰った。病人も得心がゆき主人が医者処に退院手続きに行ったから医者から大変なお叱りを受けた。あの病人は動かす事は出来ない、動かしたら即死だ。我々は一時間でも二時間でも何とかして息を伸ばす事を考えているのだ。と。次いで病人の兄が大坂から来ていたので、許可を貰うように話に行って貰った。これも同様に叱られて帰って来る。岡山駅発の終列車に間に合わねば死んでしまうのだから、それまでには是非連れ出さねばと、今度は私が医者処に行った。どういう立場かと聞かれて、私は天理教の布教師ですが、先刻から度々御願いしたのに許して貰えないと、医者といろいろと話したが、なかなか承諾してくれないので、最後に私から注文をつけた。今日笠岡を出る時は子供が学校へ行っていたしこんなに病状急変とは知らなかったから連れて来なかった。その子供が母親の死に目に遭えない事は生涯の心残りになるので、死に目に遭わせてやって貰いたいと頼むと、その時間がない、と言う。それを請け合って貰えぬのなら、では連れて帰るから宜しく頼む。すると勝手にしな

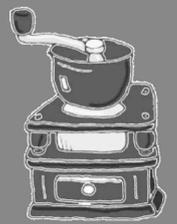
さいと言ってくれた。医務室を出ようとしたら、一寸待って下さい。あなたが無理に連れ出すのだから、それもよいが、病院の門を出ないうちに死んでも、病院では診断書しないから、それを承知して貰いたい。ハイ承知しました、と返事はしたものの、困った。病院内で死んでも死亡診断書してくれないと警察の問題が起きる。よし、病人が死んだらオレも死のうと腹は決まった。警察の取り調べを受ける前に自殺する、と。

さあ許しを貰った、早く支度せよ、病人の方も早く早くと急ぎ立てる寝間着を着替えさそうと身体を起こした途端に息切れてしまった。おい、しっかりせよ、姉さんしっかりと泣き泣き大きな声で連呼しだすし、意識不明の病人の口から教祖が連れて帰ってやろうと確かに信じ切っていただけに、その驚きは激しい。私は居ても立ってもいられないで病室を抜け出さようかと思案していた時、「教祖」という事が浮かんで来た。お姿がみえぬ、私の心をお試し下されたのだ。死に直面して心が転倒した事をお詫びし、病室に帰っておさづけを取り次がせて貰った。おさづけの取次が終わると同時に息を吹き返した。一同驚いた。汽車の時間は切迫している。急ぎ寝間着を着替えさせ運搬車(ス

トレッチャー)に乗せて玄関まで、玄関からタクシーに乗せ、最終行して駅へ、二等車に乗せて笠岡へ、駅には隣家の人が戸板を持って迎えて下された。病家に帰り着くなり、病院では頭に胸に置いていた氷嚢を取り除け、腹に卵大のしこりがあったのも、二十日余りで手に触わらなくなる。奇跡を見せて頂いた。その月二十五日には教会設立(吸江)し、宣教所長の御任命を戴いた。私にとっては大病院でのおたすけは、その教会長資格試験であったのかも知れないと、よく人に話すのであるが、この試験に合格させて戴けたのも、私の為したものでない、祖父浅野芳太郎が断絶因縁を悟って道に入信して下されたのであり、又初代・二代の伏込によって、教祖が試験に合格させて下されたものと思う。要はつくし、はこび、おさづけを使わせて頂く喜びの日々が教祖の道具衆としてのつとめであろうと思う。

(笠岡史料部長)

談話室



御霊と娘の投稿同時入選す

海松ヶ岡分教会 池田 広子

「ばあちゃん、時報歌壇に載っているよ。」11月27日の時報に母と私の短歌を見つけてすぐに母の写真に報告した。一昨年の11月に出張した母のノートに、いくつかの短歌を見つけて思わず投稿した私……。と言うのも生前、母は時報に載った私の短歌をみては、とてもうらやましそうな様子だったので、これはぜひとも母の短歌を、時報に載せてあげたいとハガキを送ったのです。とても入選するとは思わなかったもので、びっくり！十二月の月次祭のあと食堂で、重吉先生がみんなの前で、「御霊となった人の短歌が天理時報に載ったという、不思議なことがあります。その仕掛人はこの人です。」と紹介され、みんなに大笑いされ拍手をもらいました。本当にその場を盛り上げるのが上手な人です。家に帰って母の写真に、「ばあちゃんよかったね。」と話しながら、ひとりではやにやしている私です。(また投稿しようかな?)

おかえり講話のご案内

日時 1月25日 午後7時
 会場 笠岡詰所
 講師 加藤道義先生

(西成部属 神桑分教会長)

勾配の急な坂道ようやくに
 登れば見ゆる瀬戸の内海
 田の畦に山羊つながれて秋日和
 稲もたわわに穂をたれており

笠岡市 石川泰子
 笠岡市 池田広子
 立教174年11月27日第4258号時報歌壇より

教会別人づくり一覧表

(立教174年1月1日より
立教174年12月31日まで)

名称		初	授	修	教人 資格 講習	会長 資格 検定	名称		初	授	修	教人 資格 講習	会長 資格 検定	名称		初	授	修	教人 資格 講習	会長 資格 検定
笠福高神島久鶴弥高摩金興ひろさ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦笠	岡山屋邊根松山山備耶浦明と山井照岡悠江陽濃邑部市下市城部中家木陽原中昭郷備晴	5	3	1			福春							新輝豊	1		1			
		1	2			1	福中							龜田	1					
		1	2			1	福富	1						出雲						
		1					福東	1		1				天場	1					
		1		1			福南	1						簸ノ	1					
							福順							多古	2					1
		1					福節							瑞雲	1	4	1	1		
							福輝							神	1					
		1					坪生	1						呉江	2	1				1
			2				八深	2						大品	1					
			1				笠安	1	1					久呉						
			4				芦安	1						鶴						
		2	1			1	田川	1						川島	3					1
			1	2			三加	2		1				川島	1					
							芦加							鴨作	1					
		1	2				芦惠							輝錦	1					
		1					陽御							ケ	1					
		2	2				地華							行眞			1			
		3					香眞							吉清		1				
							仲稻	4	3					上木						
							稻富	2	4					小津						
							稻司							國上	1					
		2					稻門	3	3					上上	1	1				
							大東	1	2	1				河上	2					
		1					高丸							川	1	1				
							出雲		2	1				甲上	1					
		2	1	2			潮川							阿宇						
							海錦	1						河府	1					
		1	4				米弓	1	1					世						
			2				西米	1						神						
		1					伯照	1	1	1				神葦	1					
		1					松樺							合	78	53	13	3		5

十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には一れつ子供の陽気ぐらしを楽しみに昼夜を分かたず天然自然のお働きを通して御守護下さり 身上事情を通してお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共は日々御恩報じを思い念じてたすけ 一条の御用の上に勤め励ませて頂いておりますが気が付けばあと十日程で立教百七十四年も終わるといふ頃となりました 思い返せば記念祭に向かう三年千日と仕切つての成人の歩みも仕上げの年として勇んで実践項目の実動に掛からせて頂きましたところ三月十一日東日本大震災により未曾有の災害に見舞われ国内は元より世界中から救援の手が差し伸べられました 私共も義援金や救済物資又災害救援ひのきしん隊を通して支援をさせて頂きました そんな激動の中成人の歩みはより勢いを増し十一月三十日真柱様奥様のお入込みを頂いて 喜び心一杯にぎやかに創立百二十周年記念祭を執り行わせて頂いたばかりでなく 次の塚 教祖百三十年祭に向け新たな成人の歩みを踏み出すことが出来ました

その中にも今日の吉日は十二月の月次祭を執り行う日柄でございますので 月々の御礼と共に今年一年の御礼も込めて只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます

御前には年末の慌ただしさも厭いませず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝み 加えて言改めて記念祭の御礼を申し上げる状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年が改まればいよいよ教祖百三十年祭に向けての成人の歩みを本格化させて頂きます 目標のおつとめ奉仕人増員を目指しよぶよく一人ひとりが「育て欲しい」の思いから「育てる」意識を持ちその為の思案をし実動に邁進させて頂かなければなりません 今世上は親の子に対する思いは「言わなくても判る」時代から「言わなくては判らない」時代に そして「言っても判らない」時代へと変わり 親心そのものが判らない為に欲にまみれ人の心が荒れ 人間関係が崩壊しつつあるように思います 人と人との絆を深める為にも親心の大切さ有難さを一人でも多くの人に伝え 一列兄弟としての助け合いの輪を広げて行くべく「つとめとさづけ」を通しておつとめ奉仕人の「育て」に繋げて行く所存でございます

何卒親神様には 時代の流れに臆する事なく人の心の本流をしっかりと見定めて親孝心一筋にたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り 人々の心を澄まして下さいます 心明るく晴れやかな家族団欒の年末年始となりますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

第851期修養科募集要項

***修養科期間**

立教175年3月1日～5月27日

***教 養 掛**

3ヶ月間	高 木 昭 祥	(大教会准役員・湯田原分教会長)
1ヶ月目	藤 井 保 人	(福 東 分教会長)
2ヶ月目	貞 清 知 実	(三 郡 分教会長)
3ヶ月目	高 橋 徳 行	(亀田山分教会長)

***募集要項**

- ・ 志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を終了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、5月29日午前10時に解散。

◎年末大掃除

大教会

恒例の大教会年末大掃除は、12月22日午前9時から役員・教会長・婦人会・青年会など約60人が参加して行われた。



親神様・教祖・祖霊様礼拝後、親神様のお社を掃除される大教会長様を芯にそれぞれに分担し、日常手の行き届かない格子や梁・御簾などにハタキを掛け、埃を拭き取った。又、上段・参拝場は天井まで届くビデを

組んで埃を払い、最後に畳に掃除機をかけて一年間の汚れを落とし終了した。

◎餅搗きひのきしん

詰所

恒例の詰所餅搗きひのきしんは12月26、27日の両日行われ、大教会長様をはじめ教会長・有志・少年会員など65人が参加した。

26日は準備。27日、午前7時半から力強い掛け声と共に和気あいあいと行われ、約2時間ほどで本部への



大変多くの方の心寄せを頂き、3月中旬から12月までに本部へ送金させて頂いた募金の総額は14万3907円となりました。有難うございました。(大教会災害救援係)

※訂正

昨年12月21日発行の『かさおか第50巻第12号』6・7ページに掲載の「笠岡大教会年間行事予定表」の記事中、左記の各点が訂正になりました。

- ・全体行事ー別席ひのきしん団参…6月未定↓11月23・24
- ・ひのきしんー1月ー直属ひのきしん特別隊…島根↓高屋
- ・ひのきしんー12月ー直属ひのきしん特別隊…東ブロック↓島根
- ・海外部ー観光地にて外国語パンフレット配布…11月↓9月
- ・婦人会ー5月…おつとめまなび総会↓おつとめまなび大会

◎表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

※ご連絡

3月11日の震災以来、教会本部の救援・支援募金に合わせて開始した当大教会の募金も、年末27日に本部の募金が終了した事に伴って終了させて頂く事になりました。

お供え用の五升餅28個、正月用小餅などが搗きあがった。
ひのきしん後、は森本重吉さん(海松ヶ岡分)から参加者に特製うどんが振る舞われた。

大教会だより

◎直属ひのきしん特別隊

自 立教175年1月11日
 至 立教175年1月20日
 稲 讚 高橋 竜 二

◎立教175年春季大祭参拝

吸	東	海	呉	芳	陶	ひろ	興	金	摩	陽	弥	鶴	久	島	神	高	福
江	悠	松	照	井	山	と	明	浦	耶	備	高	山	松	根	邊	屋	山
大	吉	大	佐	大	岡	中	大	大	大	大	中	岡	大	大	吉	中	上
教	岡	教	藤	教	本	村	教	教	教	教	村	本	教	教	岡	村	原
会	会	会	道	会	久	長	会	会	会	会	久	会	会	会	村	村	繁
奥	奥	奥	孝	奥	善	剛	長	長	長	奥	邦	長	長	長	岡	村	道
様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	様	義	善	善	善	壽	剛	道

照	輝	新	新	明	上	府	東	服	島	驛	油	葦	湯	備	神	美	錦	笠
美	山	山	山	石	市	中	中	部	中	家	木	陽	田	中	昭	之	備	晴
濃	濃	部	部	市	下	市	城	部	中	中	中	中	大	佐	中	佐	上	中
陽	陽	部	部	市	下	市	城	部	中	家	木	陽	田	中	昭	之	備	晴
上	上	佐	吉	上	大	佐	中	吉	岡	岡	岡	中	大	佐	中	佐	上	中
原	原	藤	岡	原	教	藤	村	岡	本	本	本	村	村	教	村	村	原	村
繁	繁	道	道	繁	会	道	村	岡	久	久	久	村	村	会	村	村	原	村
道	道	道	道	道	奥	奥	奥	奥	善	善	善	剛	剛	剛	孝	孝	道	義

計 報

田中一之氏

大教会理事、福山分教会前会長。
 十二月二十一日出直されました。
 享年七十二才



正月二日の朝、我が家で恒例になつています「大和風雑煮」を作ります。大根、人参、里芋、豆腐を白みそ仕立てで少し甘いのです。丸餅を焼いてから、食べる少し前に入れるがコッ！溶けずに良い感じに仕上がります。

六人の子供に付いている人達みんなで、雑煮で祝ってもらいます。私自身もこれを頂かないと正月を迎えた気に成らないのです。

今でも私の実家では、正月三賀日は、男が台所を仕切り、三食みんな給仕するのです。その当時、母が「寝正月」を楽しみ、百人一首やらカルタで私等五人の姉兄弟に、ミカンや吊るし柿を褒美に競うのです。貰った物を更に「坊主めぐり」と称する「百人一首の絵柄」を積み上げて、お坊様を引いたら負けで、御姫様が出たら大勝利・・・その、歌の読み方が五・七・五・七・七で丁度「おふでさき」の読みと一緒に読めます。笠岡大教会長様のように綺麗には読めませんが、それらしく味わって読んでいます。

今では、PCやらスマホでゲームが出来るので孫達のお遊びに付いて行くことが出来ません！「お爺ちゃ

ん！将来的には携帯電話は全部スマホになるから早くやった方が良いけんねえ」と尻を叩かれています。半世紀前の私等の遊びと言えば、コマまわし・ベッタ(メンコ)缶けりや石けり・チャンバラごっこ！それこそ正月の定番は、凧揚げの競争で、どれだけ高く揚げるかで糸の長さや強さが決め手！風が弱いと走り回り、田圃の中でも何でも入るから、靴やズボンが汚れて母に叱られていた事も・・・懐かしい気がします。

だから学校のマラソン大会や運動会でも走っていたものです、結果は？中学の学年三百余名で七位入賞だったのが自慢ですが、当時は流線型でカッコ良かった？今はその影も無く、未だ生え揃わない前髪にポッコリお腹と入れ歯のアンサンブルですわ・・・

真柱様のお言葉に、今は時代が違うからとか、昔の考え方だから、今の時代には合わない。等と云うのでは無く、親神様と初代達が交わした約束は、自分達の約束としてその真髓を語り伝え通る事が大切であり、信仰者の目的地として見定める事が大切である。と御教示下さいました。

目指す四年先に照準を合わせて、初代の想いに、違ふことの無いように、粉身の努力を惜しまず、通らせて頂く事を御誓い申上げた正月でありました。

(に)